

4/20 木 晴

# 許すな！



頭がよみがえり、怒りと恐怖で胸が詰まります。ロシアは核威嚇をし、核使用を躊躇しない状況ですが、再び被爆国を世界のストップモーティによって止けない。核の被爆者は日本で最後にしなければなりません。核の脅威と使用から人類を救うためには、世界中から核兵器を

日本原水爆被害者  
団体協議会

児玉三智子事務局次長

なくやさかありません。  
**共存はできない**

日本原水爆被害者団体  
協議会（日本被爆國）を  
代表して、これまで国連

の命を数つはねてきました。核兵器は人類は共存できませんことを真にしみて実感しています。このまま核兵器が使用されば、瞬時に命を奪われ、

人間として死ぬじつもであります。ヨミのよろこびわざれた遺体は誰ともわからず、ガソリンをかけられ燃やされました。人間の尊嚴など全くないので

「核兵器は国際の命と生活を守るために抑止力として必要だ」と主張していました。

しかし原爆を体験した者として、核兵器では人は、体にも心にも痛みます。それが生きていた人達もいました。人間の尊厳など全くないので

# 核で命守るところでもない

あせん。  
核兵器禁止条約に参加  
すぐれたと国連の7割が  
支持しています。の間に  
開かれる核兵器禁止条約  
の第一回締約国会議にオ  
ブザーバーでも参加し、  
被爆国として核兵器の非  
人道性を世界に訴えてほ  
しい。

を抱え、雑用を取扱い放  
射能の被爆における77  
年たっても「あの日」が  
消えることはありません  
。これが戦争です。

じれったもじで、「核  
兵器」や非核三原則の見  
直しの議論が必要だと曰  
く民衆や「維新の会」から  
声が上がっていますが、  
國民の被爆をもたらした  
「核」で日本の国民の命  
を守らうなどということ

を教訓として重ねて体  
験を通して人類の危機を  
救おう」と核兵器の廃絶  
と、國家財産の被爆者援  
護法を求めて運動を行っ  
てきましたが、國が拒み  
つけ、まだ実現してい  
ません。  
(聞き手 加藤聰子)